

## ホームスクーリングの証拠がほしい方、おられますか？

ここにあります！ ブライアン・レイ 博士

ブライアン・レイ博士は、国立ホームスクーリング研究所（NHERI）所長。科学教育学で博士号を取得し、数々の記事や本を執筆。主要メディアからも度々インタビューを受け、裁判でも専門家の立場から証言をしている。また、教育問題に関して国会でも証言。ホームスクーリング研究に関する第一人者として世界をリードしている。オレゴン州立大学で科学教育学の博士号を取得。妻ベスティさんとは結婚して37年、8人の子どもたちは全員ホームスクーリングで育つ。孫は8人。コンベンション2016に来日決定。



殺人が悪であることを誰かに納得させるために、研究結果を示す必要はありません。では、子どもを愛する親が、我が子の人生に深く関わるのが、教育上良いことを示すために、なぜ研究に基づく立証が必要なのでしょう。

家庭において親が子どもを教育することは、聖書が教える基本です。だからこそ、多くのクリスチャンがホームスクーリングをしています。ホームスクーリングが子どもにとって有益なのは、それが神の本来の計画だからです。それゆえ、それは良いことであり、また正しいことだと言えます。とはいえ、ホームスクーリングに関する調査結果を知れば、多くの人は安心することでしょう。では、調査から何が分かるのでしょうか。

### 歴史のあらまし

親が家庭で子どもを教育するホームスクーリングは、この6千年あまり、世界の標準的な姿でした。その後、1900年までに、多くの「先進国」においてホームスクーリングは消滅していきました。ところが、1970年代後半に入ると、再びホームスクーリングは復活し、例えば、アメリカにおける幼稚園児から高校生までのホームスクーラー人口だけでも、約220万人（親や兄弟も含む）にまで増えています。これは驚くべきことです。

ホームスクーリングをしている親は様々な社会的背景を持っており、人種等も様々です。高校を中退した親もいれば、博士号を持っている親もい

ます。裕福な親、あまり裕福でない親、不可知論者、クリスチャン、ヒューマニスト、ユダヤ教徒、イスラム教徒、そしてニューエイジ信者。家庭環境も様々で、子どもが8人もいる家庭もあれば、一人っ子の家庭もあります。両親が揃っている家庭に、ひとり親の家庭。住んでいる場所も、都市部から、地方の大自然の中といろいろです。親の職業も、営業マン、公立校の教師、医師、配管工など多種多様です。子どもが生まれた時からホームスクーリングを継続している親もいれば、中学校に進学する段階でホームスクーリングに移行する親もいます。

ホームスクーリングに対する世論も、格段に良くなってきています。理由の一つは、学術的（進学やその後の学習・研究の実績等）、社会的（就職・実社会での貢献）、さらに社会人としての人生において、ホームスクーリングがどのような良い効果をもたらしたかが実証されているからです。

### ホームスクーラーの学力はどうなのか。テストの結果は？

全米入試センター試験（SAT）について、私とローレンス・ラドナー博士が行った全国調査や、そのほかの研究調査等を見ても、結果が一致しています。ホームスクーラーたちは一般的に、SATにおいて65～80%の点数を取っているということです。公立校に通う生徒の平均はおよそ50%なので、15～30点ほど平均点を上回っていることとなります。加えて、州ごとに収集した

データでも、ホームスクーラーたちが平均よりもセンター試験の結果が優れていることを示しています。

数多くの調査で分かったことは、親が教員免許を持っているか否かに関係なく、ホームスクーラーは一般的に平均よりも高い学力を持っているということです。たとえ親が中学や高校しか卒業していなくても（それ以上の教育は受けていない）、ホームスクーリングで育った子どもたちは、SATにおいて全国平均を毎回、上回っています。一方、公立校に通う生徒を見てみると、たとえ親が大学・大学院等の高等教育を受けていたとしても、全国平均を下回る生徒たちも多くいます。

こうしたホームスクーラーの成績と、州政府によるホームスクーリングの規制やコントロールには、何の相関関係もありません。規制がゆるい州であっても厳しい州であっても、ホームスクーラーのテストの点数はほとんど変わらないのです。

公立校に通う生徒においては、家庭の経済状況がそのまま成績に直結しています。一方、ホームスクーリングで学んでいる子どもたちは、親の収入状況にかかわらず、平均よりも高い成績を収めています。

## 社会性はどうか？

ホームスクーラーの社会性については、どうでしょうか。多くの研究者たちの調査によると、ホームスクーラーたちの社会性、情緒面において、心理学的・精神的な成長度は、公立校の児童生徒と比べて、優れていることが分かっています。メドリン博士は、ホームスクーリングがその子の社会的、情緒的、精神的な発達に積極的に関わっているという、本格的な調査結果を発表しました。

また、新たな全国調査から分かったことは、「ホームスクーリングで育った青年世代は、友人たちの飲酒やマリファナの使用に対して、明確に反対する傾向が強い」ということです。さらに、タバコやアルコール、大麻、違法ドラッグに手を出したという報告はほとんどなく、アルコール中毒やマリファナ中毒と診断されたケースもほぼ皆無です。結局のところ、ホームスクーリングで育った青年世代はホームスクーラーではない同世代の若者と比べて、違法ドラッグに接する機会がほと

んどありませんし、売人たちの接触が難しい環境に置かれていて、接触してくることもほとんどないと報告されています。

一方、ホームスクーラーの子どもとその親は、地域の学習・社会活動に積極的に関わり、参加・貢献しています。例えば、スポーツ・音楽・芸術クラブ等への参加やボランティア・福祉・教会関係での活動、コミュニティーサービスの利用など様々な活動を積極的に行っています。さらに、公立校の児童生徒と比べても、ホームスクーラーの交流範囲は広く、子どもから大人まで幅広い年齢層と接しているのが特徴です。

## 「実社会」でのホームスクーラーの状況は？

私は、ホームスクーリングで育った7千人以上の成人を対象に、全米での調査を行いました。大学進学や就職、結婚、子育てといった面で、公立校出身の成人と違った結果が出てきています。明確に違う面が見られた項目の一つは、市民活動に関わる分野です。投票や市民集会への参加、メディアや官庁に積極的に意見・提案を行ったり、選挙候補者や特定の政党などへ寄付をしたりボランティアとして働くなど、こうした活動に対し、同年代のアメリカ人と比べて、ホームスクーリング出身者はかなり高い割合で関わっていました。

また、教会学校等で育った、クリスチャン子弟の約9千人の成人を対象に行った調査において、教育環境の違いによる大きな差が出てきました。ホームスクーリングで育った子弟がクリスチャンとして成長する割合は、一般のミッションスクールに通っていた子弟の2・2倍、公立校に通っていた子弟と比べると2・5倍に上りました。結婚前に同棲したり婚前交渉をしたりする割合は、ホームスクーラーでは9%ほどですが、ミッションスクールに通っていた人では2・44倍の22%、公立校では3・8倍の34%に上るといふ調査結果となりました。

別の研究者たちが行った調査でも、私たちが行った調査と同じ結果が出ています。例えば、ギャリー・ノールズ博士とジェームス・マッチモア博士が行った調査では、以下のことが判明しました。「例えば、ホームスクーラーほぼ全員に共通して見られたのは、個々人の違いを尊重したり、他者

に強い同情心や積極的な関心を持ったりするという特徴です。……さらに、社会性については、ホームスクーリングによって不利、また、懸念されたような不足はまったくなく、実社会での活躍が多く見られています。それは、ホームスクーリングの評論家たちが示唆している通り、ホームスクーリングのおかげで真の社会性が育っている状況と言えるでしょう。また、学者のチェン氏は、ホームスクーリングで積極的に学んできた人は（公立校に通っていた人と比べて）、大人になってから人間関係の摩擦等が起こった場合、忍耐の度合いが高いことも分かりました。

## しかし、なぜホームスクーリングは功を奏するのか？

なぜホームスクーリングは効果を発揮し、子どもたちを成長させるのか——それを説明する正当な理由はいくつかあります。1つには、1対1の深い絆に基づく、個別指導が効果をもたらしていることは、歴史を通じて認められていますし、調査結果もこれを支持しています。鍛冶屋職人の弟子づくりであれ、数学、電子工学、あるいは神学などいかなる分野、職業であろうと、教師と生徒、師弟の間に深い絆や信頼関係が築かれていることは、大きな利点であることは間違いないでしょう。

2つ目としては、それぞれの子どもの長所や短所、学習スタイル、関心に合わせてカリキュラムをカスタマイズし、教えていくなら、子どもの学力を最大限に引き出せることが、広く証明されています。ホームスクーリングはまさに、愛情を持ち、子どもたちのことをよく知っている親が、その子どもに合った学習法をもって育てていくことができます。特にそれは学習障害等を抱えた子どもたちへのニーズに合い、その効果は顕著に表れます。

3つ目に、安全かつ子どもたちにやる気をもたらす学習環境を整えることは、教師なら誰もが目指すところです。それらがホームスクーリングでは自然な形で提供されています。ホームスクーラーたちは、他の生徒たちからの困惑や混乱をもたらす悪い会話や誘惑、いじめ等はなく、その他、学習や成長を妨げる様々なことに気を取られることがありません。

4つ目に、社会学者たちは、ホームスクーリン

グが功を奏している別の例を挙げています。調査が示すところによれば、社会資本（人間関係、信頼、社会規範によって生み出されるもの）や、教師と生徒（親と子どもたち）の間にある価値観や信念、世界観の一致が、子どもの学習に良い効果をもたらしているとのことです。

5つ目に、ホームスクーリングは、親が養い、育てる使命と責任を果たし、友達や社会との交流関係に一貫性をもって関わり、導きます。一方、学校に通っている子どもの場合は、同年代の仲間を意識し、その規範に基づいた行動を取るようになり、その否定的な影響も免れ得ません（例えば、家族を軽んじ、蔑み、家族の絆の弱体化に進ませたり、流行等の影響で心身の健全な成長が妨害されたり、いじめの問題や不安感・不安定な情緒の増幅、無気力・否定的・敵対的な歪んだ精神の風潮や性問題にあふれた現代社会、ネット社会の悪影響など）。親や大人が子どもたちに正しい方向を示してあげることは聖書的であり、子どもにとって有益であるという事実を、調査結果は様々な角度から実証し、報告しています。

最後に、7つ目のポイントとして、ホームスクーリングを上手に進めている子どもと親たち、あるいは良い結果を残している親子の特徴として、親が聖書に基づいた教育と聖書的なしつけ・訓練に熱心に取り組んでいることが挙げられます。ホームスクーリングは、この「聖書に立つ教育としつけ・訓練」が可能であり、良き実を結んでいるのです。家庭を軸にした教育がもたらす環境や人間関係は、学術面や人格・心の成長面、そして社会面での成功へとつながっていきます。このように、ホームスクーリングをなすべき強い理由が、たくさんあるのです。

